

【随 筆】

緑が目に染みる季節ですね

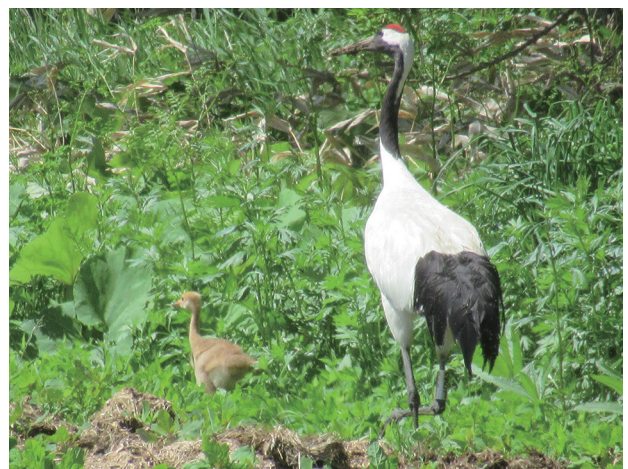
住 吉 尚
(釧路支部)

皆さん、春です！山菜採りを楽しめますか？先月号にタケノコが未だ！と言う話を書きましたが、今年はとうとう食べずじまいになりました。道東で採れる山菜では、私的にはタラの芽が最高位です。コゴミは処理も簡単で良いのですが、なぜか数年前から妻がコゴミを食べると腹痛を起こすようになり、我が家の食卓には上がなくなりました。ウドやタラの芽などウコギ科の植物は皆さわやかな香りがあり、下処理も要らないこともあって食べやすい山菜ですよね。先日釣りの帰りに、タラの芽を採って来て、酢味噌和えと天ぷらでいただきました。葉が20 cm ぐらいに伸びていても、柔らかに美味しくいただけます。タラの木が生えていた草原にはワラビもたくさん出ていましたが、「山菜は少しずつ楽しむもの」と言うのが私の考えですから、2種類も一緒に採るのはもったいないと思いタラの芽だけにしました。小さな袋ひとつ採って来ても夫婦2人では2日もかかって食べる羽目になりました。歳を取ったためでしょうか？少ししか食べなくなったものです。クマ牧場にいた20代の頃は肥料袋ひとつ採って来て、大きな鍋いっぱい酢味噌和えを作り、数人でぺろりと平らげたものでした。たくさん山菜を採って来て、塩漬けにしたり、瓶詰にしたりして楽しむ人も多いようですが、私は「季節の物はその季節に」がモットーです。今日は釣りをして家に帰ると、玄関先に袋に入ったウドが置いてありました。山菜好きな近所さんがお裾分けを置いて行ったものです。早速茹でて酢味噌和えやらきんぴらやらと料理をしましたが、2人で何日かかって食べるのやら、と言う感じです。

さて、季節はもう6月、野山は新緑が目に染みるほどの季節です。そして大方の野鳥たちにとっては繁殖の季節です。4月初めに抱卵していたタンチョウも、もう孵化したヒナを連れて行動しています。私が今季最初にタンチョウのヒナを見たのは5月21日のことです。ヒナは生後10日以上経っているように見えてましたが、藪の中で写真にはなりませんでした。しかし、親鳥の1羽には足輪が付いているのが見えたので、写真を撮り確認しようとしたのですが、こちらは手前に生えていたシラカバの葉



ピントが木の葉に



2羽とも背中ばかり

にピントが来て、足輪が読めないと言う失態をやらしました。この家族は5月30日に堆肥山にいたところに出会いましたのでパチリ。でも私から逃げていくところですから背中からの写真になります。親の1羽に付いている足輪も251番と読めました。この個体は毎年この辺りで子育てをしている常連さんと言うところでしょうか？

この春は大きな嵐もなかったのでタンチョウの繁殖成績も順調なようです。このように繁殖の状況を調査して、足輪を付けるバンディング調査に備えるわけです。今までのバンディング調査の結果から次第に分かってきたことは、釧路周辺で繁殖する個体の子供たちはあまり大きな移動をしない様だ、十勝地方で繁殖する個体は釧路地方で繁殖する個体の子供たちより大きな移動をする様だ、と言うことがあります。これは越冬地が釧路地方であるため、繁殖地と越冬地が離れることで大きな移動に馴れてくるためか？あるいは大きな移動をするためにはより高い高度を飛行するため、遠くが見渡せるから狭い範囲で縄張り争いをしなくても、少し飛ばば競争相手がいない良い繁殖地が手に入ると言うことが判って来たから

か？これらの理由が重なってか？十勝でも釧路から遠い、十勝での繁殖分布の辺縁部というあたりの繁殖個体が、日高胆振やオホーツクあるいは宗谷地方に飛来して繁殖分布を広げているようなのです。これを実証するために十勝での繁殖分布辺縁部での集中的なバンディング調査をしたいと言うのが私の希望なのですが、こればかりはタンチョウ保護研究グループでの足並みがそろわなければ実施困難ですよね。私がバンディング調査に参加している間に何とかこれを実現したいものだ、と考えていますが、わが身があと何年野外調査に参加できるか？という不安があります。なんと言っても私も77歳ですから80歳までやれるかどうか？とは思いますが、「先のことはグズグズ考えずに今日できることをする」が私のモットーです。今年もタンチョウのバンディング頑張るぞー！

越冬地から繁殖地へ大きな移動をする鳥を「渡り鳥」と言いますが、この起源には種ごとに違う理由がありそうです。でも結果としては同じような行動をするため、ひとくくりに「渡り鳥」と呼んでいるのではないかと私は思っています。この中でツルの仲間では「繁殖地＝越冬地」だったものが、越冬地としては十分な餌環境があっても、繁殖シーズンになると大きな繁殖用の縄張りを持つとすると、個体数が増加すると場所がなくなるということが起きます。そのため、より良い繁殖場所を求めて繁殖シーズンには移動をする、ということが「渡り」の起源のような気がしています。そしてこのため、アメリカシロヅルやタンチョウでは越冬地と繁殖地が同じと言う個体群がいました。この内アメリカシロヅルでは「渡らない」個体群が絶滅し、日本のタンチョウでは「渡る」個体群が絶滅しました。そして今、日本のタンチョウで「渡り」をする個体ができ始めるごく初期の段階に来ている、と私は思っています。繁殖地が現在の越冬地から少しずつ離れて行く傾向が見え始めていますが、より難しいのは、越冬地が今より自然での餌環境の良い場所に移動するということが起きるか？です。ツルの仲間はどこに移動するかは親が子に教えることで成立していますからより難しいのです。繁殖地は子が自分で決めるので広がっていきませんが、越冬地は親が子を連れて行くことで覚えていくので、簡単には移動していかないように思われます。このため、宗谷管内で足輪を付けたタンチョウが鶴居村で越冬したのでしょう。この個体の親かそのまた親が釧路管内で繁殖していた証拠のようなものです。でも最近になって、越冬地での給餌を削減し始めていますから、少しずつでもより餌環境の良い所へと

移動していくのでしょうか。ここ2～3年前から十勝管内で越冬する個体が増えていきますから、越冬地もゆっくりですが移動していく可能性があります。またごく少数ですが、日高管内で越冬するタンチョウの観察例が増えています。これらのことから、タンチョウの道内での分布も少しずつですが変化して行くように見えます。タンチョウが釧路管内の越冬地から本別や足寄へと飛ぶ時、どのぐらいの高度を飛ぶのでしょうか？多分この時に北見管内の平野が見えているでしょうから、サロマ湖あたりに行こうとしても不思議ではないですよ。こうして徐々に北へと分布を広げたタンチョウが豊富町内のデントコーン畑で捕獲され足輪を付けられました。発信器が付いた雄の親鳥は鶴居に越冬に来て、春は鶴居から北へ向かい、現在は宗谷管内の兜沼の南側当たりにいるようです。足輪を付けた時につがいだった雌がどこかに行ってしまったので、新たな雌と繁殖行動を起こしているのでしょう。でも去年の繁殖地とは違う場所なので、去年の繁殖場所には足輪を付けた雌が新たな雄と繁殖行動を起こしていれば面白いのに、と勝手に思っているところです。これらのことが判ってくるのは秋になってデントコーンの刈り採り後にタンチョウが出てきてからになりますね。幼鳥に発信器が付いていないのは何とも残念です。

釧路市内でのクマ騒ぎは結局タヌキの見間違いだったようです。タヌキは夜行性が強いので日中見ることが少ないのでこんな間違いが起きるのでしょう。一方のキツネは日中でも堂々と歩き回りますから、これまた迷惑な話です。私が犬と散歩をしていると、1頭のキツネが、犬とお友達になろうというのでしょうか？どこまでも付いてきます。先日はとうとう「あの犬のいる家」を探し当てた！と言う顔をして我が家の庭でくつろいでいまし



我が家の庭でのんびり



フロントガラス越しなので白濁しています

たので、パチリ。花盛りのスマレの中でのんびりしているキツネがいました。写真のついでにフロントガラス越しに撮った失敗写真を一枚載せましょう。もちろんですがシカ牧場ではありません。こんな風景も珍しくなくなりましたね。

私の写真は失敗作が多いので、野外での野生動物の写真で注意すべき点を少し。ただ私はそこに何がいたか、の記録用ですから写真としては失敗作だけです。よく「タンチョウの写真をたくさんお持ちですね」と言われますが、写真として見られるような作品は見事なぐらいありません。では以下にご注意を。

- 1、デジカメでは手前に何かあると予想外の物にピントが来ることがある。
- 2、車に乗っている時は、降りないで撮る。車から降りると大抵は逃げ出す。
- 3、車を止めてから窓を開けない。近づく前に車の窓は開けておく。
- 4、歩いて鳥などの写真を撮る時は良さそうな場所で鳥が来るまで待つ。

(追いかけても良い写真は撮れません。)

- 5、何より大事なのはすぐカメラを向けられる準備をしておくことです。

6月7日、火曜日のことです。チカでも釣ろうかと標津まで行って見ました。もちろんですが、途中のタンチョウの観察が主な目的ではありますが。釧路発8時、気温7℃、走り始めると気温は6℃に。10時標津到着。相変わらず気温は6℃。この気温は12時に釣りを止めるまで同じ。寒くて大変、おまけにさっぱり魚は釣れず、がっかりでした。ここで岸壁の隅のごみの中にたくさんの海鳥の死体があるのに気づきました。かなり大きく尾が長いので1羽はウミウかな？と思いましたが、ほかの鳥の種類は



岸壁の隅のごみの中でどれが海鳥は分かりません

不明です。少なくとも3種類はいたようです。でもどの死体にも首がないように見えました。釣りをしていた地元民によれば、網にかかった鳥を網から外し捨てたものだということでした。浅い海に仕掛けるニシン用の刺し網が犯人のような話でした。これも写真を載せてみました何が写っているか？分かりにくいですよね。少なくとも5羽の死体が写っているのですが、この隅だけで6羽の死体が、ほかの隅までは見ませんでした。港全体では10羽は下らないのでしょうか。最後まで下手な写真でごめんなさい。

〈句題〉 矛盾

「薄物で

暖房入る蝦夷の梅雨」

「地球温暖化

対策会議冷房中」

「恋猫の苦情電話に犬の声」



(室蘭市 白波瀬 稔歳)